

第1問

設問A

- (1)なだらかなX山地に対して、内的営力による隆起量が大きく外的営力による侵食量が大きいY山地は標高が高く起伏が大きい。
- (2)火山フロントに位置し、活動的な火山が多く標高が高い。
- 5 (3)食糧不足を解消するための水田を造成する干拓が行われた。
- (4)沖積平野が広がるcでは稲作が、台地が広がり稲作に適さないdでは畑作や酪農が行われる。
- (5) 5×10^1 倍

設問B

- 10 (1)西南日本外帯に位置し山がちな地形が連なり、河川沿いの低地は狭く、下流にも大規模な平野はみられず、可住地の割合は低い。
- (2)水資源。多雨だが人口密度が低く水が余剰となる高知県から、瀬戸内海に面し少雨だが人口密度が高く水が不足する香川県へ、吉野川にダムを建設し、水の供給が行われている。
- 15 (3)冷涼な気候に適するレタスは、市場に近く輸送コストが安い茨城県からは春と秋に、高原が広がる長野県からは夏に出荷される。

5 10 15 20 25 30

第2問

設問A

(1)放牧地の拡大により植生の破壊が進んでいる。

(2)古くから有畜農業による肉類や乳製品の消費が多い国々であったが、食生活の多様化が進んだことに加え、健康志向が強まり、野菜類や低カロリーの肉類や魚介類の消費が進んだため。

(3)ペルーは山岳地帯での自給的な畑作が中心で、他は広大な平野で大規模な牧畜などを行う企業的な農業が盛んである。また、ペルーの民族構成は先住民中心で、イモ類などの伝統的食文化を維持してきたが、他は欧米型の食生活をとる白人の割合が高いため。

設問B

(1)A－マレーシア B－ベトナム C－タイ D－インドネシア
E－フィリピン

(2)工業化を重視した政策により、輸入依存の傾向が強まり、国内供給量の伸びより生産量の伸びが小さく、自給率が低下した。

(3)以前は輸入国であったが、高収量品種の導入など緑の革命により生産量の伸びが国内供給量の伸びを上回り、国内自給を達成した。

5 10 15 20 25 30

第3問

設問A

(1)ア-5 イ-16 ウ-6

(2)東西統一後、経済が停滞し失業率が高い旧東ドイツは流出により減少し、雇用機会に恵まれた旧西ドイツは流入により増加した。

5 (3)南部は高度な組立機械工業が発達し、北部は鉄鋼業の国際競争力の低下によって衰退したが、その後、両地域とも欧州経済の核心地域としてサービス経済化が進展し、産業構造が高度化したため。

(4)東欧などからの移民や紛争地からの難民の流入が増えたため。

設問B

10 (1)高度経済成長期にあたり、太平洋ベルトの臨海部で工業化が進み地方から雇用機会の多い三大都市圏へ人口移動が活発化したため。

(2)情報化・国際化の進展で東京と地方の格差が拡大し、東京圏への一極集中がみられる。大阪圏は産業構造の転換が進まず転出超過であるが、自動車産業が発達する名古屋圏は転出入の幅が小さい。

15 (3)都心部から郊外への人口移動が顕著であったが、バブル崩壊後の地価の下落により都心部への人口回帰がみられるようになった。

5 10 15 20 25 30